

※添付資料

伊邪那岐命（イザナキ）と伊邪那美命（イザナミ）の話

それはそれは大昔、日本神話の時代のこと。

大山祇神には、木花咲耶姫(コノハナノサクヤビメ)というとても可愛い娘がおりました。

その可愛がり方は、まさに「娘にぞっこん！目に入れても痛くない！むしろ入れたい！」ほどだったと言います。

そんなべた惚れの娘が、とうとうお嫁に行くことになりました。

嫁ぎ先は、天孫降臨（てんそんこうりん）で有名な瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）さん。

このニニギさん、素晴らしい神様だったんですが、その反面女性にだらしないチャラ男な神様としても有名でした。

それが証拠に、実はニニギさんの元には木花咲耶姫(コノハナノサクヤビメ)の姉に当たる磐長姫（イワナガヒメ）も一緒にお嫁に行ったんですが、容姿が気に入らないということで送り返してしまったんです。

ニニギ「パパさん、イワちゃんは俺のタイプじゃないからいらねっす！」

ニニギ「超可愛いサクヤちゃんだけで十分っす！」

大山祇神「娘を返品やと。何を考えとるんやこいつは・・・。」

大山祇神「よっしゃ！ならサクヤとの結婚も無しや！」

しかし、そんなお父さんにニニギの追い打ちがかかります。

ニニギ「無理っすー。もうサクヤちゃんとの間に子供できちゃったっす。」

大山祇神「手が早すぎんだろおおお！」

サクヤ「パパ！二人の幸せを祝ってちょうだい！」

大山祇神「ぐ・ぬ・ぬ。娘に言われたらしゃーないわ。せめて美味しい酒を造って盛大に祝うかの。」

こうして作られた祝い酒が、天甜酒（あまのたむざけ）。

現在の「甘酒（あまざけ）」は、この天甜酒（あまのたむざけ）がその起源とも言われています。

これにより、大山祇神はその後お酒の神様である「酒解神（さけとけのかみ）」とも呼ばれるようになりましとさ。

イワナガヒメ「私の扱い、ひどくない・・・？」

おしまい。

